

池谷しげみ歌集

蜩林

蛸^{てう}
林^{りん}

池谷しげみ歌集

てうりん
蜩林

池谷しげみ歌集（かりん叢書 No. 126）

一九九九年五月二〇日発行

著 者 池谷しげみ

横浜市港南区上大岡東一―二一―一八―三

☎ 二三三―〇〇〇―一

発行者 富士田元彦

発行所 株式会社 雁書館

東京都千代田区神田神保町二―一―二 三浦ビル

☎ 一〇二―〇〇五―一

電話・東京五二一―〇二二七

印刷 近藤印刷株式会社

製 本 河上製本株式会社

定価はカバーに表示してあります。

蜩林
目次

肘掛けの椅子	007
転居	011
二拍子	015
新蟬	020
三浦海岸	025
ひまはり	031
辞書繰る	034
木登り地蔵	039
低き山毛櫨	044
晚白柚	050
アロエ	053
おほき寒さ	059
水仙	065
冷たきゆくへ	070

犀の母子	074
冬原	081
支倉常長の墓	085
三内丸山遺跡	090
魔女の鏡	095
ねむたくて	101
杏露酒	104
月山	111
エアバッグ	117
鎌倉	122
光合成	127
明日へ	132
母の水脈	139
棕櫚の叫び	146

泳ぐ手 150

針槐 155

雪の日 159

きさらぎ 165

針箱 169

肺葉 174

雉鳩 180

やせて越す夏 184

死すべく生れぬ 188

あとがき 193

装幀 小紋潤

蛸林^{てうりん}

池谷しげみ歌集

肘掛けの椅子

今日一日待つてゐたよといふやうに腕広げゐる肘掛けの椅子

萩散りしこと気付かざりちちのみの父が血を吐く七十歳の秋

「弱りゆくわれをつぶさに見よ」といふ真夜低き父の声に覚めたり

凡たるを幸と教へし父にして怒りのごとき血を吐く今日は

みづからの傷癒すすべ知るやうに海穩やかにその身を揺する

灯台はほのかに老いて丈低しからくれなるの灯を抱くかな

冬雑木揺るるのみなる籐椅子にかけて病父の見しものをみむ

転居

梅の白沈丁花の白照る家にわれは転居の荷造り始む

寝て食べてつづまり住むとは何ならむ心もろとも今日転居する

暮れて闇明けて光の匂ふ春いづこに住みても言の葉のなか

転居てんきよ緑のなかを要るやうないらざるやうな荷を引きずりて

春寒く雨の粒子に濡れそぼつ丘のなだりにともかくも住む

マン
シ
ョ
ン
群
ひ
し
め
き
建
ち
て
そ
の
間^{あひ}
を
チ
ェ
ロ
や
ピ
ア
ノ
の
音
が
埋
め
ゆ
く